



千代田化工建設
グループCSR報告書 2009

発行に際して

千代田グループのCSR*活動をご報告する「グループCSR報告書2009」を発行しました。ぜひご一読ください。

皆様のご意見やご感想を、私たちの活動に反映させたいと思います。アンケート用紙をご利用いただき、ご意見をお寄せください。

※CSRの定義：Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)とは、経済産業省によれば、「法律遵守にとどまらず、企業自ら、市民、地域および社会を利するような形で経済、環境、社会問題において、バランスの取れたアプローチを行うことにより事業を成功させること」と定義されています。

報告書の構成

特集：千代田グループならではのCSR

当社グループの「事業推進による社会の持続的発展への寄与」として、2つの事例を紹介しています。

CSRビジョンに沿った活動紹介

5つのCSRビジョンに沿って、2008年度の活動の主な実績をハイライトし紹介しています。

当社Webサイト内「CSRへの取り組み」

「CSRへの取り組み」ページでは、CSRの考え方やコーポレートガバナンス、コンプライアンス、社会貢献や環境への取り組み、そしてお客様・お取引先に対するかかわりや従業員に対する施策を紹介しています。過去のCSR報告書も掲載していますので、ぜひアクセスしてください。



<http://www.chiyoda-corp.com/company/csr/>

千代田化工 CSRへの取り組み 検索

報告の対象範囲

千代田グループ9社(千代田化工建設および国内連結子会社8社)のCSR活動を、報告の対象範囲としています。特定の会社による活動をご紹介する場合は、その旨記載しています。



千代田工商株式会社

国内エネルギー・化学関連プラントの設計・建設・メンテナンス、損害・生命保険代理業



千代田計装株式会社

電気・計装・制御・FAシステム関連設備の設計・建設・保守



千代田テクノエース株式会社

研究施設、ファインケミカルおよびハイドロカーボン関連施設の建設に関する設計・施工・監理・コンサルティング



千代田ユーテック株式会社

各種産業設備の事業化計画およびコンサルティング



千代田アドバンス・ソリューションズ株式会社

プラント・産業施設運転の高度解析・ソリューション提供、宇宙利用のコンサルティング



アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社

財務・会計・税務の総合コンサルティング



AQ-ヘッド・インターナショナル株式会社

出張・赴任等旅行業、資材輸出・航空運送代理業



ITエンジニアリング株式会社

ITシステムの企画・開発・運用支援、プロジェクト管理/生産管理ソリューションの提供



千代田化工建設株式会社

報告の対象期間および発行

報告対象期間：2008年度(2008年4月1日～2009年3月31日)

発行月：2009年8月

ガイドライン

「the Global Reporting initiative's guidelines (the new G3 guidelines)」、および「環境報告ガイドライン2007年版」(環境省)を参考にしています。

私たちは、エネルギーと環境の調和を取りつつ、持続可能な社会の発展に貢献する企業グループとしてチャレンジします。

2009年3月現在、千代田グループは、千代田化工建設株式会社および連結子会社17社、持分法適用関連会社3社により構成されています。

千代田化工建設は、日本および海外において、各種プラント・施設の設計・建設を主要事業とする総合エンジニアリング企業です。

会社概要 (2009年3月31日現在)

- 社名: 千代田化工建設株式会社
(CHIYODA CORPORATION)
- 主なオフィス: 横浜本店(横浜市鶴見区)
子安オフィス・リサーチパーク
(横浜市神奈川区)
- 資本金: 433億92百万円
- 主な事業内容: エネルギー、化学、医薬品、バイオ、環境分野等の各種プラント・施設に関するコンサルティング、計画、設計、調達、建設、試運転、運転・保全管理コンサルティング／トレーニング、研究開発・技術サービス、プロジェクトマネジメント

● 連結業績: (2009年3月期)	受注工事高	2,094億円
	完成工事高	4,464億円
	経常利益	114億円
	当期純利益	64億円
	受注残高	4,250億円
	従業員数	3,376名

- URL: <http://www.chiyoda-corp.com/>

目次

企業紹介

会社概要	1
トップメッセージ	2

特集: 千代田グループならではのCSR

クリーンエネルギーの 世界的な需要に应运	4
未来をつくる千代田の エネルギー・環境技術	6

CSRビジョンに沿った活動紹介

CSRビジョン1 ～信頼される企業	8
CSRビジョン2 ～環境への取組	10
CSRビジョン3 ～事業を通じた社会への貢献	12
CSRビジョン4 ～人の尊重	14
CSRビジョン5 ～公明正大な企業運営	16



トップメッセージ

活気に溢れ、
世の中から一層信頼される
企業を目指していきます。

千代田グループ経営理念

総合エンジニアリング企業として、英知を結集し研鑽された技術を駆使して、エネルギーと環境との調和を目指して事業の充実を図り、持続可能な社会の発展に貢献する。

千代田グループCSRビジョン

1. 信頼される企業
2. 環境への取組
3. 事業を通じた社会への貢献
4. 人の尊重
5. 公明正大な企業運営

サハリンLNGプロジェクト完成 千代田DNAの賜物

2007年の社長就任以来、千代田グループのDNAとなっている「人材」、「技術と信頼」、「国際社会への貢献」というキーワードを踏まえ、「知財こそ将来の糧」、「環境に優しい技術」、「人に優しい経営」を経営の三本柱として掲げてきました。

その成果ともいえるものが、本レポートの特集でも紹介している、サハリンLNGプロジェクトの完成と、国土交通省 JAPAN プロジェクト国際賞 国土交通大臣賞受賞です。これは、現地の厳しい環境保全要求をすべてクリアして完成させたこと、技術移転をはじめとする地元へのさまざまな貢献、そして40以上の国籍、異文化・異言語を持つ1万人近いワーカーたちのマネジメントをしながら、2千万時間超の無事故・無災害記録や、延べ4千万km無事故走行記録の達成ほか、厳しい自然条件を克服し、安全を遵守したことなどが客観的に評価されたものです。私は、このプロジェクトに参画した社員たちの努力は当然ながら、社員に根付いた千代田のDNAが自然と発揮された賜物であることを大変嬉しく思っています。

新中期経営計画「変革と創造2012」 エネルギー・環境・資源分野への注力

2009年5月に、2012年度を最終年度とする新中期経営計画「変革と創造2012」を発表し、その中で事業領域をエネルギー・環境・資源の3つと決めました。当社は、環境問題が注目される以前の1972年に、創業者である故・玉置明善氏がエネルギーと環境問題を解決するための技術開発に取り組むことを『21世紀への遺産』で宣言し、重油直接脱硫装置の建設や、排煙脱硫装置(CT-121)を自社開発するなど、エネルギーと環境との調和に取り組んできました。低炭素社会の実現が重要視されている今、私たちが強みとしているLNG分野を核として、代替クリーンエネルギーの分野へと事業の幅を拡大し、さらに多くの国や地域への展開を強化します。また、今後数十年は続く、石油、ガス、石炭といった既存エネルギーの低炭素化を可能とする新しい技術開発に取り組んでいきます。技術者などの陣容を整え、一步一步着実に計画を進めていきますが、千代田パーソンならばそれが可能だと信じています。



CSR活動の継続的推進 世の中から信頼される企業を目指す

私は、今回の新中期経営計画が軌道に乗れば、これまで以上に業容が広がり、活気の溢れる会社になるものと期待しています。当社グループが生業とするエンジニアリングは、ようやく社会に認知され始めてきた段階です。今後は広く社会から、より高い認知度を獲得できれば、興味を持ってくれる若者も増え、この業界全体にさらに広がりが出てくるものと楽しみにしています。

私は、CSRの根幹を成す思想は、世の中の規範に外れた企業行動をしない、ということに尽きると考えています。

当社グループは、「総合エンジニアリング企業として、英知を結集し研鑽された技術を駆使して、エネルギーと環境との調和を目指して事業の充実を図り、持続可能な社会の発展に貢献する」ことを千代田グループ共有の経営理念として、世の中の規範に外れない企業活動を展開し、すべてのステークホルダーの皆様から信頼と共感を得る企業グループ経営を目指します。世の中から一層信頼される企業を目指し、今後とも千代田グループならではのCSR活動を推進していきます。



世紀を超えた千代田グループの 遺伝子(DNA)

1972年に人類の発展と自然調和を提唱する小冊子『21世紀への遺産』を発行し、エネルギーと環境問題を解決するための技術開発に取り組むことを宣言。現在もこの精神は千代田人に引き継がれ、千代田グループの技術のバックボーンとなっています。『21世紀への遺産』の全文については、当社Webサイトをご覧ください。

2009年7月

代表取締役社長 久保田 隆

クリーンエネルギーの世界的な需要に応じて — サハリンLNGプロジェクトが国土交通大臣賞を受賞 —

千代田グループは灼熱の地、カタール国で手掛けるLNG（液化天然ガス）プラント建設と並行し、厳寒のサハリンで建設中であった、ロシア初のLNGプラントをこのほど完成させました。このプロジェクトに対し、当社グループのプロジェクト遂行能力の高さが評価され、2009年3月に「JAPANプロジェクト国際賞 国土交通大臣賞」※を受賞しました。



日本企業の技術力の高さを示したプロジェクト



プラント全景とスタッフ一同

「国土交通大臣賞」受賞の理由としては、

- ① サイト内で樺太マスの産卵遡上するサハリンの在りのままの自然を残すことに最大の配慮をし、環境負荷を最小限にとどめたこと
- ② 2千万時間超の無事故・無災害記録の達成や、延べ4千万kmの無事故走行記録の達成など、厳しい自然条件を克服し、安全を遵守したこと
- ③ 現地での雇用・技術移転・地元還元・社会貢献活動を幅広く実施したこと
- ④ ロシアの資源と日本の技術を結集させ、中東地域などに偏りがちだったエネルギー供給源を隣国ロシアに確保したこと

などが高く評価されたものです。



※「JAPANプロジェクト国際賞」:

国土交通省が2009年に創設した賞で、日本企業が海外プロジェクトで、優れた設計・施工ノウハウや技術力を発揮したプロジェクトに贈られるものです。そのうち最上位の賞が「国土交通大臣賞」で、サハリンLNGプロジェクトを手掛けた当社および関係4社が受賞しました。

ロシア初のLNGプラントの意義ある完成



完成式典テープカット

今回完成したLNGプラントで液化された天然ガスは、タンカーで日本をはじめとする東アジア地域に供給されます。CO₂排出量の少ないクリーンエネルギーとしてLNGの需要は高く、供給源の多様化に向けた国家的なエネルギー戦略に寄与する重要な役割を担います。

2009年2月、日露首脳出席のもと、現地にて完成式典が盛大に催され、4月には第1船が東京電力(株)と東京ガス(株)が共同運営する袖ヶ浦基地に入港しました。

厳冬の地、サハリンにおけるキャンプ・オペレーション



厳冬のサハリンにて、朝日の昇るプラント

最も寒い時期には氷点下30度にも達する厳寒の地、サハリン。この厳しい気候条件のもと、2004年8月のキャンプオープン以来、増加するワーカーを収容するため、キャンプのキャパシティを増設するなど、7,000名を超える人員のオペレーションを可能にしました。とりわけ、アルコール管理の強化や、広いキャンプ内における交通事故対策、スノー・マネジメントなど、ロシアならではの地域特性にはさまざまな配慮が求められます。清掃イベントなどの実施による当事者意識の向上や、キャンブルールの適時改定など、関係者全員が工夫を重ね、2008年9月にプラントの完成・引渡しを迎えることができました。

サハリン2プラントとLNGタンカー

未来をつくる千代田のエネルギー・環境技術 — 豊かな社会の実現に貢献する千代田の変遷 —

2008年に創立60周年を迎えた当社は、1972年に小冊子『21世紀への遺産』を発行し、エネルギーと環境問題の解決に取り組むことを宣言しました。この精神に沿って、これまでにエネルギー・環境関連の技術を開発し、国内外において数多くのプラントを建設し、世界各国の豊かな暮らしづくりに貢献してきました。ここに、LNG^{※1}、排煙脱硫装置^{※2}、重油軽油の脱硫装置^{※3,4}などのエネルギー・環境に関する技術、プラント建設の変遷をご紹介します。

排水のろ過装置を開発し、
受注多数

重油直接脱硫装置を建設

CT-101排煙脱硫装置を
開発し、多数建設

三菱油化(株)四日市
CT-121排煙脱硫装置商業1号機



CT-121排煙脱硫装置1号機の
完成、以降受注相次ぐ

東亜石油(株)川崎
軽油深度脱硫装置



軽油の深度脱硫装置の
完成・受注本格化

1960
~1970年代

わが国初の
LNG受入基地の完成



東京瓦斯(株)根岸
LNG基地

1980年代

LNGプラント(200万~500万トンクラス/年)
の受注相次ぐ



写真提供:カタールガス社

カタールガス社(カタール)
LNGプラント(トレイン3)

1990年代

緑色の文字は排煙脱硫装置 (CT-101,121)、重油軽油の脱硫装置関連の出来事を表します。
オレンジ色の文字はLNGプラント関連の出来事を表します。

ジョージア パワー社(米国)
ポーエン発電所3号ボイラー
CT-121排煙脱硫装置



CT-121排煙脱硫装置、
米国で連続受注

排煙脱硫装置
業界トップクラスの実績

コンビナートの
省エネルギー対策を実施

2000年代

国内LNG受入基地一括工事の完成、
以降受注相次ぐ

超大型LNGプラント (780万トン/年)の
受注・完成本格化



写真提供:カタールガス社

カタールガス2社(カタール)
LNGプラント(トレイン4)

LNGプラント
業界トップの実績

環境

- 低炭素社会に向けたカーボン
マネジメントソリューションの提供
- 水・統合ユーティリティ・システムの開発

明日に向けた 価値の創造

- Floating LNG (洋上プラント)への
取り組み強化
- 再生可能エネルギー分野への業域拡大
- エネルギー資源のさらなる有効利用

エネルギー



Floating LNG (イメージ図)

- ※1 LNG (Liquefied Natural Gas) :
天然ガスを液化したもの。
- ※2 排煙脱硫装置:
排煙に含まれる亜硫酸ガスを
除去する装置。
サラブレッドシリーズCT-101、
CT-121を自社開発しました。
- ※3 重油の直接脱硫装置:
重油に含まれる硫黄を除去する装置。
- ※4 軽油の深度脱硫装置:
軽油に含まれる硫黄を除去する装置。
硫黄濃度を500ppm以下まで除去する
ものを深度脱硫装置といいます。
最近はさらに低濃度にする超深度脱硫
装置があります。

CSR vision 1

信頼される企業

世界トップクラスの技術と知見の提供により、お客様をはじめ取引先から信頼され続ける企業となるよう努めます。

CSR中期活動方針

- ・ 質の高いエンジニアリングの提供によりお客様の満足を得る信頼性のあるプラントの提供
- ・ ベンダー、サブコントラクターなど取引先とのCSR理念の共有

信頼に培われたメンテナンス・サービス

千代田グループは一丸となって、お客様のプラントの事業化計画から設計・調達・建設・運転・メンテナンスに至るまで、プラントのライフサイクルに応じたサービス（プラント・ライフサイクル・エンジニアリング）を提供しています。特に、プラントを最適に運転するためのメンテナンス・サービスは、長年にわたる安全・安心なサービスの提供を通じて培われた、お客様からの信頼の証です。



お客様に密着した提案型メンテナンス事業

千代田計装は、国内の4事業所（東日本、関東、中部、西日本）を拠点として、お客様に密着した提案型のサービスにより、装置が運転中に実施する日常保全工事（OSM: On Stream Maintenance）や、計画的に装置を停止して行う定期修繕工事（SDM: Shut Down Maintenance）のメンテナンス事業を展開しています。これらの事業は、独自に開発した安全ツールによる安全の確保、施工資格認定士の施工による品質の徹底、CO₂排出削減に向けた環境への対応などを通じて、長年にわたりお客様の満足と信頼を得ています。

最近では、富士石油（株）や昭和四日市石油（株）から、OSMやSDMばかりでなく、一連の改造工事や建設工事を受注し、お客様と一体となってプロジェクトを遂行中です。



大型の定期修繕工事



施工認定有資格者による品質管理

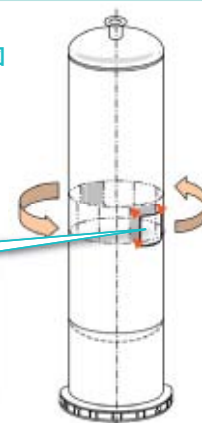
お客様設備のコスト効率向上につながる工法の開発

国内製油所の大型蒸留塔の改修・更新向けに、短納期・低コストの新工法「大型塔類の胴板はめ込み工法」を、千代田工商と千代田で開発しました。これは、改修したい箇所の胴板を複数枚に分けて切り取り、新板をはめ込む手法を実用化したものです。

従来法に比べ、工期の短縮や既設設備の最大有効活用ができ、お客様設備のコスト効率向上を実現します。また、環境負荷の低減にも寄与します。

はめ込み工法の概要図

既設の減肉した胴板を切り取り、新規胴板を溶接取付する



安全に配慮したメンテナンス・エンジニアリング

千代田工商のメンテナンス事業本部 京浜事業所長が、2008年7月、川崎南労働基準監督署主催の講習会「定修工事等における労働災害防止について」において、近隣企業（発注元、元請、協力会社）の約300名に対して、安全管理活動の講演を行いました。同所が担当する東亜石油（株）京浜製油所・水江工場での川崎南労働基準監督署による査察において、現場安全管理活動が高く評価され、同監督署の依頼に基づき講演を行ったものです。

同社は、北海道・鹿島・京浜・静岡・愛知・四日市・倉敷・小野田・福岡に事業所を設置し、主要工業地帯をカバーしています。特にお客様の製油所内にも事務所を置いて常駐し、各種プラントの建設・補修・改造・増設・緊急トラブル対応などのメンテナンスを中心に、お客様のプラント運用・管理を支援しています。



朝礼での安全唱和



安全パトロール

事業所より一言

千代田工商 メンテナンス事業本部 京浜事業所 所長 高橋 勝

「安全文化」とは、日々の安全に対する高い意識と行動の繰り返し・継続にはかたまりません。“誰が”ではなく、工事に関係するすべての人々が、安全に関する事項に自ら取り組むことが真の「安全文化」につながるものと確信しています。

2008年の講演で紹介した内容をさらに高めて取り組んだ結果、東亜石油（株）京浜製油所・水江工場内では、おかげ様で2008年度に受注した工事も、無事故無災害達成で完工することができました。



CSR vision 2

環境への取組

研鑽された技術を駆使して、地球環境と、経済・社会活動の調和を図り、社会にとってかけがえのない企業であり続けるよう努めます。温室効果ガス排出低減や廃棄物削減などの環境活動を展開しています。

CSR中期活動方針

- ・ 環境負荷の少ないエネルギー技術、環境保全技術の開発、提供
- ・ 環境保全に寄与する企業活動

事業活動に伴うマテリアルフロー (2008年度)

INPUT

国内建設現場



電力.....61万kWh
 軽油.....1,830kl
 灯油.....9.4kl
 生コンクリート.....8.6万トン
 アスファルトコンクリート..0.1万トン
 鉄筋・鉄骨・鋼材.....1.4万トン

オフィス



電力.....1,260万kWh
 水道.....6.2万kl
 ガス.....54.2万m³
 紙.....364トン

環境事業活動

EPC活動*



※ EPC活動:設計・調達・建設活動

中間処理施設



国内建設現場
 リサイクル率 89.6% (汚泥以外)



オフィス
 リサイクル率 74.0%

リサイクル

再資源化施設



グリーン調達※

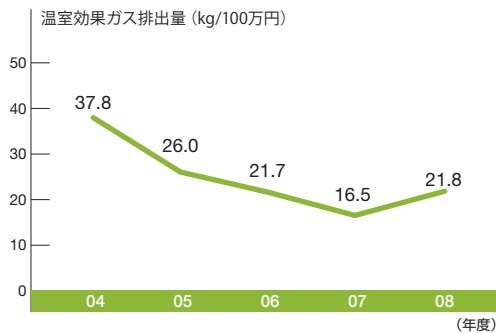
※グリーン調達:環境に配慮した機器・資材を優先して調達すること。

オフィス活動での取り組み

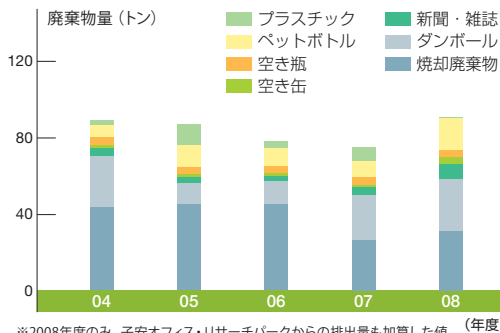
自然エネルギーの利用、省エネルギー設備の導入などにより、当社の完成工事高(売上高)当たりの温室効果ガス排出量低減に努めています。

また、一般廃棄物量についても、ごみ分別およびリサイクルの徹底により、低減努力しています。

完成工事高当たり温室効果ガス(主にCO₂) 排出量



一般廃棄物排出量の推移



オフィス活動

研究開発活動

OUTPUT

国内建設現場



温室効果ガス..... 5,160トン
 化学物質..... 12トン
 産業廃棄物..... 9,060トン
 (汚泥以外)

オフィス



温室効果ガス..... 8,350トン
 一般廃棄物..... 89トン

最終処分場

最終処分量
855トン
 (汚泥・焼却灰以外)



出張所より一言

若松出張所 所長代理 成田 智

環境保全への取り組みとして、工事に先立ち、地中に埋まっている既存のコンクリート基礎(3,500m³)の撤去を行いました。産業廃棄物となるコンクリート塊破砕用として建設現場に破砕機(ガラパゴス)を持ち込み、撤去したコンクリート塊を0~40mmの大きさに破砕し、道路の路盤材として再生利用しました。

従来より行っている構外搬出運搬の場合、延べ約1,000台の大型ダンプトラックでの往復となりますが、今回は道

路沿線住民への騒音・粉塵被害の防止や、産業廃棄物の有効利用・再資源化を主眼に計画・実施しました。産業廃棄物の再生利用に着目し、真に環境への配慮を目指した取り組みを行っています。



CSR vision 3

事業を通じた社会への貢献

国内・海外のエンジニアリング事業の遂行を通じ、人材育成、技術移転、環境保護など、地域社会への貢献に努めます。

CSR中期活動方針

- ・事業を通じた社会への貢献活動の整備
- ・知力、労力の提供による社会貢献活動の充実

千代田は世界各国で水や大気を取り扱うプラントを建設しています。その実績を生かし、将来のための次世代教育にも力を入れています。



クイズに元気よく手をあげています

次世代教育としての環境授業の実施

2008年11月17日、神奈川県川崎市立新町小学校にて、当社の社員が講師となり、小学4年生55名に対して環境授業を行いました。

授業では、「日本人1人当たりの1日の水の使用量」や、「醤油の混じった水をきれいな水に戻すには、どのぐらいの量の水が必要か？」など、クイズ形式で説明しました。子供たちから元気よく手があがったり、答えを聞いて驚きの声が上がったりするなど、活気に溢れた授業となりました。



2009年2月20日、
本社所在地に近い
横浜市立鶴見小学校でも、
5年生105名を対象に
環境授業を行いました。



子供たちから届いた感想文

先生より一言

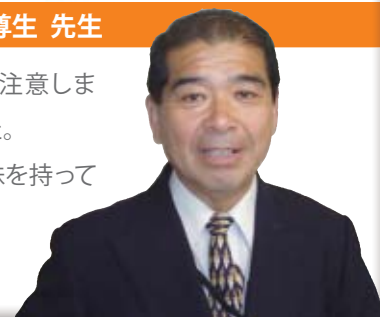
神奈川県横浜市立鶴見小学校 校長 土屋 尊生 先生

本校では、2年前から環境についての出前授業をお願いしています。2008年度は、クイズやろ過実験などを通して、「水の大切さ」を学びました。

授業後に、子供たちから「私たちは、砂漠の国の人と比べて50倍もの水を使っている現状に驚きました。こ

れからも水を無駄に使わないように注意します」などの感想がたくさん出されました。

これからも、子供たちが環境に興味を持って生活できるよう、学習を積み重ねてまいります。



答え：3本（日本では約150本）



講師の説明に熱心に聞き入っています

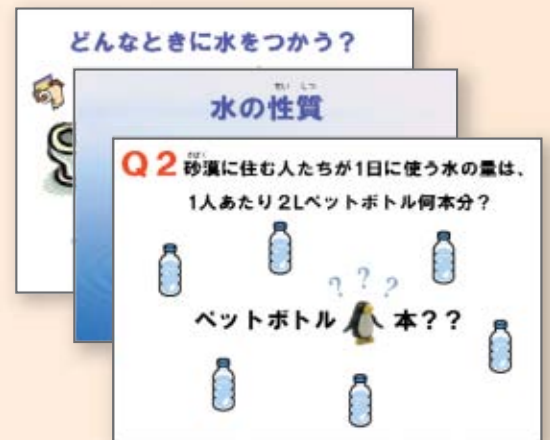


水を浄化する実験を行っているところです

また、活性炭とフィルターを使って水を浄化する実験を行い、色の付いた水が無色透明に変わるのを見た子供たちから、感嘆の声が上がりました。先生からの評判も上々で、この授業が、生活の中で水を無駄にしない方法を考えるきっかけになったようです。

この環境授業の様子は、2008年12月9日付の日本経済新聞朝刊別刷の「環境・エネルギー広告特集2008」に掲載されました。特集全文は当社Webサイトをご覧ください。

また、当社は、学校教員を対象とした研修、大学への講師派遣、インターンシップ学生の受け入れなどを行っています。



授業で用いたスライドの一例です。
答えはこのページのどこかにあります。

地域とのコミュニケーション



2008年11月16日、本社所在地（横浜市鶴見区）の地元自治会が主催するクリーンキャンペーンに、70名のグループ従業員とその家族がボランティアとして参加しました。清掃活動を行った後、当社の太陽光発電設備や屋上緑化などの見学会を行いました。

国際貢献



千代田フィリピン・コーポレーションでは、エンジニアリング知識教育(OJT)を目的として、現地の工学部学生や東南アジアからのエンジニアを受け入れています。千代田グループは、海外でのプラント建設を通して、その国々の伝統などを尊重しながら、技術伝承や雇用創出などを支援しています。

CSR vision 4

人の尊重

全ての人々の人権を尊重します。同時に従業員の多様性、個性、人格を尊重し、従業員とその家族が誇りを持てるような働きやすく、働きがいのある企業風土作りに努めます。

CSR中期活動方針

- ・活気に溢れた組織風土づくりと人材育成の実現
- ・「安全はコアバリュー」の全関係者への浸透

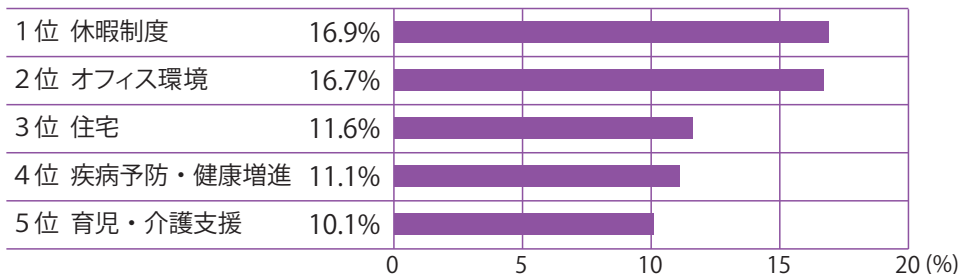
ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

労使合同従業員アンケートの実施

当社では、従業員の福利厚生に対する意見やニーズを把握する目的で、「福利厚生とワーク・ライフ・バランスに関する意識・実態アンケート」を、2009年1月に労働組合と共同で実施しました。そのうち、例えば「従業員が重要視する制度」について、14項目から上位5項目を選択した結果は以下のとおりです。この結果をもとに、福利厚生制度の充実に労使ともに協力して取り組んでいくこととしています。

従業員が重要視する制度

アンケート対象者	1,429名
回答者数	844名
回答率	59.1%



「休暇制度」に関する対応状況

本人の誕生日や結婚記念日などを年休取得の機会とするアニバーサリーホリデー、連続した休暇を目的としたシーズンホリデーや、ボランティア活動に対する休暇制度などを導入しています。

「疾病予防・健康増進」に関する対応状況

内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)や糖尿病などの該当者および予備軍を減らすことを目指して、生活習慣病健診を2008年度より実施しています。

安全文化への取り組み

安全は何よりも優先すべきことであるという意識が、全従業員に定着するような取り組みを続けています。

安全表彰 ～エクソンモービル社よりEMDC 2009 Safe Contractor Award受賞～

カタールガス社向けに遂行中のLNGプロジェクトにおいて、顧客、協力会社と一体となった安全への取り組み姿勢が高く評価されたもので、2007年度にシェル社より受賞したShell CEO 2007 HSE(健康・安全・環境) Awardに続く、顧客からの安全表彰です。



サハリンプロジェクトの顧客プロジェクトマネージャー・ヒラリー マーサー氏による講演

全社安全大会

「安全はコアバリュー」との意識を高めるため、2007年度より毎年、全社安全大会を開催しています。2008年度は、お客様の視点から安全についてご講演いただきました。

- サハリンプロジェクトの顧客プロジェクトマネージャーの講演(2008年7月)
- シェルガス&パワージャパン(株)およびシェルグローバルソリューションズジャパン(株)社長の講演(2008年12月)

啓発活動

建設現場がある国の言語を使ったポスターの掲示などにより、理解しやすい労働安全衛生にかかわる啓発活動を行っています。

労働災害発生率

建設現場における労働災害発生率は、度数率^{※1}が0.14、強度率^{※2}が0.13となりました。(2007年度実績:度数率0.13、強度率0.01)

※1 度数率:100万延べ労働時間当たりの労働災害による被災者数により、災害発生頻度を表したもの。数値が低いほど安全性が高いことを示す。

※2 強度率:1,000延べ労働時間当たりの休業日数により、災害の重篤度を表したもの。数値が低いほど安全性が高いことを示す。



構内での飲食禁止を示すポスター(上は英語、下はロシア語)



着物の着付体験

外国人エンジニアへのサポート

当社には、フィリピン、インドなどから来日した100名以上の外国人エンジニアが勤務しており、お祭りやパーティーなどを通して、それぞれの国の文化・習慣を大切にする試みがなされています。一方、ビザや在留資格の取得に加え、学校に関する情報の提供や病院への付き添いなど、日常生活の側面サポートを行っています。

CSR vision 5

公明正大な企業運営

常に高い倫理観に基づいて公正な事業を営み、透明性と安定性を高めるよう努めます。

CSR中期活動方針

- ・コンプライアンスの徹底と透明性ある企業活動
- ・リスク対応の徹底

コンプライアンスへの取り組み

コンプライアンス認知度調査2009

これまで実施してきた千代田グループのコンプライアンス活動について、その認知度を調べるためのアンケートを、2009年3月に実施しました。グループ社員約3,500名を対象者としたアンケートで、回答率は65%でした。

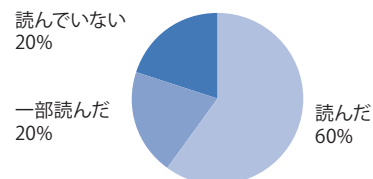
認知度調査の主要項目の結果は、以下のとおりです。

- ①グループ企業行動規範の認知度： 80% (68%)
- ②グループ役職員行動の手引きの認知度： 64% (42%)
- ③コンプライアンス通報相談制度の認知度：84% (67%)

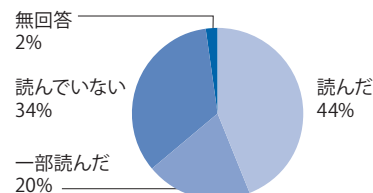
※ ()内は前回の調査結果です。

アンケートの結果を踏まえて、今後もより質の高い活動を行っていくとともに、グループ内への浸透度を高めていきます。

グループ企業
行動規範を
読みましたか。



グループ役職員
行動の手引きを
読みましたか。



2008年度通報実績

① 職場環境の改善関連	6件
② 就業規則の順守関連	2件
③ その他	3件
合計	11件

千代田グループ企業行動規範/グループ役職員行動の手引きは当社Webサイトをご参照ください。
<http://www.chiyoda-corp.com/company/csr/compliance/koudoukihan.php>

内部統制

当社は、業務の適正を確保するために必要な内部統制体制の整備・運用を進めており、会社法が施行された2006年4月には、取締役会で「内部統制システム構築の基本方針」を決議しています。

また、2009年3月末には、金融商品取引法の内部統制報告制度（いわゆるJ-SOX法。財務報告に係る内部統制の適正性を評価・報告する制度）の経営者評価に資する内部監査を実施し、当社の内部統制が適正であることを確認しました。同法に基づいて2009年6月24日、「内部統制報告書」を提出しました。

「内部統制報告書」については、当社のWebサイトをご参照ください。

http://www.chiyoda-corp.com/ir/library/file/financial-report/fr81-200903_naibu.pdf

コンプライアンス強化月間

2008年10月より、毎年10月をコンプライアンス強化月間と位置づけ、外部専門講師を招いて当社グループの業務関連法規のセミナーや、eラーニングによるコンプライアンス教育を実施しています。

これまでに実施した外部専門講師によるセミナーと、担当部門からの参加者数は以下のとおりです。

	参加者数
独占禁止法(談合防止)	約70名
下請法	約110名
不正競争防止法(外国公務員贈賄防止)	約40名
インサイダー取引	部長クラス以上対象



弁護士による不正競争防止法セミナー

(注) 独占禁止法: 独占禁止法は大きく分けて「不当な取引制限」「私的独占」「不正な取引方法」(談合を含む)の3つを禁止しています。企業や事業者の自由で公正な取引を目的としています。

下請法: 独占禁止法の特別法で、正式名称は「下請代金支払遅延等防止法」。下請事業者の利益を確保するため、発注者の支払いに係わる義務・禁止事項について規定されています。

不正競争防止法: 事業者間の公正な競争を保護し、適正な市場を確保するために、不正行為を取り締まる法令です。1999年に法改正され、外国公務員への不正な利益供与について禁止されました。

インサイダー取引: 企業の株価に影響を及ぼすような重要情報を入手した会社関係者が、情報の公表以前に株式を売買する行為で、代表的な不正取引です。

情報セキュリティに関する取り組み

当社グループでは、定期的にグループ連絡会を開催し、グループ一体となって情報セキュリティ体制の維持・向上に努めています。

2007年12月の千代田化工建設による情報セキュリティ認証取得に続いて、2008年12月には千代田アドバンスト・ソリューションズが、2009年4月にはITエンジニアリングが、それぞれ情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の国際規格、ISO/IEC 27001:2005/JIS Q 27001:2006の第三者認証を取得しました。



第三者登録証

担当者より一言

千代田化工建設 業務監査室 衣川 摂子・横田 令子

内部監査は、よく健康診断にたとえられます。健康診断を行い、悪い兆候があれば、深刻な病状に悪化しないよう助言を行います。ただし、診断結果に基づき食生活や生活態度を改めるなどの対

策は当事者でしか取れません。私たちは内部監査を通じて、業務担当者に業務の正しいあり方について見直していただく手助けとなることを願っています。





私たちはグループの力を集結して
事業を進めています。

主要なグループ企業（2009年3月31日現在、千代田化工建設の連結子会社・持分法適用関連会社）

〈プロジェクト業務遂行〉

千代田工商株式会社(横浜市)

千代田計装株式会社(横浜市)

千代田テクノエース株式会社(横浜市)

〈コンサルティング〉

千代田ユーテック株式会社(横浜市)

〈先端エンジニアリング〉

千代田アドバンス・ソリューションズ株式会社(横浜市)

〈海外設計拠点〉

千代田フィリピン・コーポレーション(フィリピン)

エル・アンド・ティー・千代田リミテッド(インド)

〈海外プロジェクト業務遂行拠点〉

千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(シンガポール)

ピー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア(インドネシア)

千代田タイランド・リミテッド(タイ)

千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ(マレーシア)

千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド(ミャンマー)

千代田ベトロスター・リミテッド(サウジアラビア)

〈海外営業拠点〉

千代田インターナショナル・コーポレーション(米国)

千代田ナイジェリア・リミテッド(ナイジェリア)

〈財務・会計・税務〉

アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社(横浜市)

〈航空運送代理業〉

アローヘッド・インターナショナル株式会社(東京都港区)

〈コンピューター管理システム開発〉

ITエンジニアリング株式会社(横浜市)

〈人材派遣・教育研修〉

株式会社アローメイツ(横浜市)

千代田化工建設株式会社

〒230-8601 横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号

TEL 045-506-7535 FAX 045-506-6857



CSRへの取り組みに対する社会的責任投資(SRI)評価機関からの評価

